

■ 立地の適正化に関する基本的な方針（案）

（１）まちづくりの理念

本計画の上位計画である「米子市まちづくりビジョン」では、「『住んで楽しいまち』 よなご ～新商都米子の創造に向けて～」を市の将来像とし、誰もが生きる喜びを感じられ、人生の充実感を得ることができるまちを目指しています。

また、「米子市都市計画マスタープラン」では、「まちなかと郊外が一体的に発展する都市づくり」を都市づくりの理念として、都市機能が集積し交通の結節点でもあるまちなか（中心市街地）と郊外の拠点を結ぶことで、市全体が一体的に発展することを目指しています。

これらの上位関連計画における都市づくりの理念・市の将来像、主要課題をふまえ、本計画におけるまちづくりの理念を以下のとおり設定します。

■ 立地適正化計画におけるまちづくりの理念

● 上位関連計画における都市づくりの理念・市の将来像

「米子市まちづくりビジョン」における市の将来像
『住んで楽しいまち』 よなご
～新商都米子の創造に向けて～

「米子市都市計画マスタープラン」における都市づくりの理念
まちなかと郊外が一体的に発展する都市づくり

● 立地適正化計画策定にあたっての課題

分類	強みを伸ばすための課題	弱みを克服するための課題
人口等	年をとっても健康・快適に生活できる環境の整備	若い世代や子育て世代の居住誘導
土地利用	コンパクトにまとまった良質な市街地の維持・充実	増加が見込まれる空き家・低未利用地の利活用
産業	魅力の掘り起こしによる観光産業の育成	新しいライフスタイルに対応した働く場所・学びの場所の充実・創出
都市機能	中心市街地のにぎわい・活力の確保	公共施設等の多機能化・総量の適正化
道路・交通	多様な移動手段の確保	持続的に運行可能な公共交通網の構築
災害リスク	災害発生時の被害の最小化	頻発化・激甚化する災害リスクへの対応
郊外	まちなかと郊外の一体的な発展	持続的に運行可能な公共交通網の構築（再掲）

●まちづくりの理念

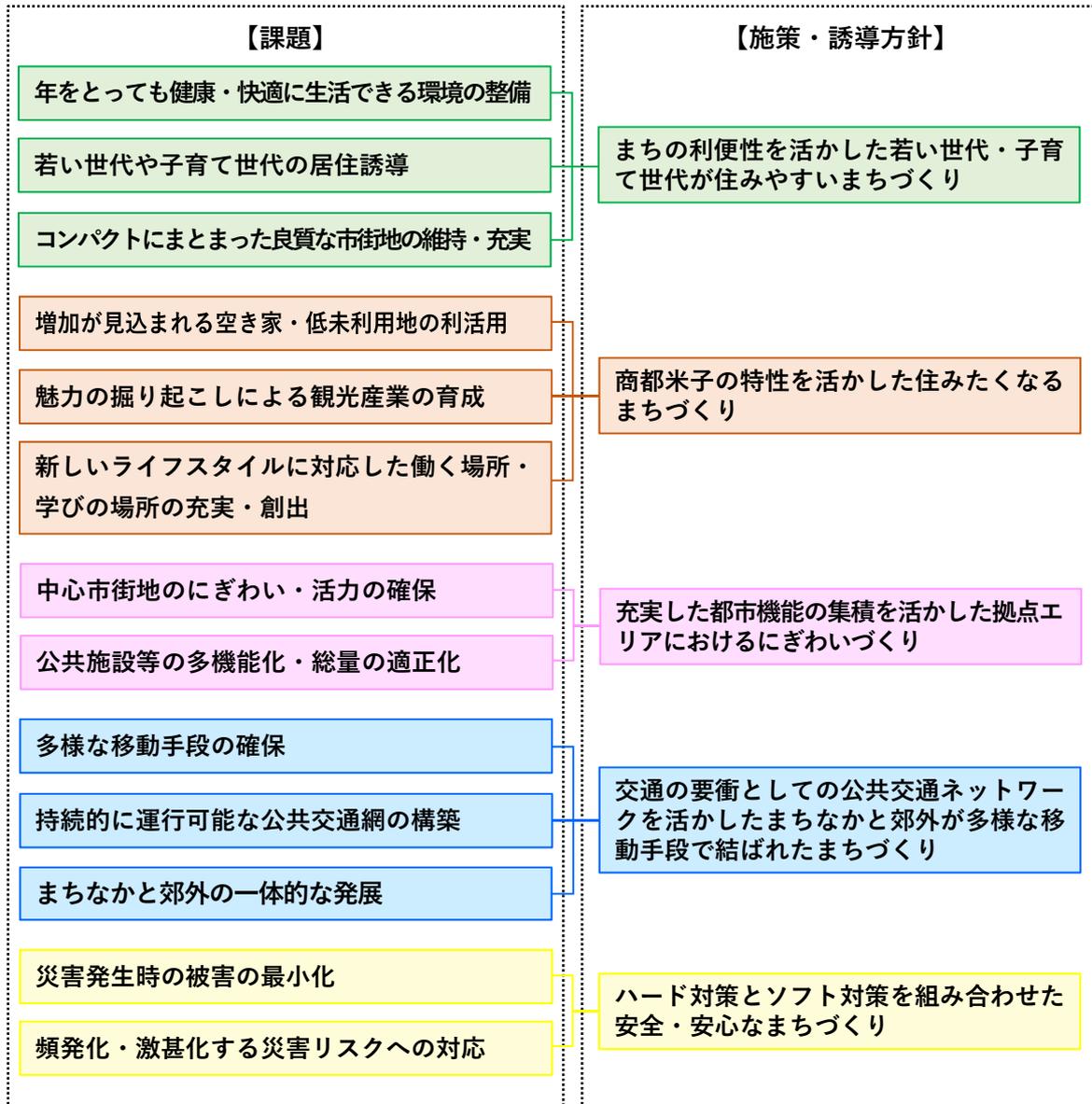
これまで培った都市のストックを活かした
子どもたちが住み続けられるまちづくり
～まちなかと郊外がつながるまち、新商都米子～

大山や中海、米子城などの自然・歴史資源、医療・バイオ産業などの先端産業、山陰の交通の要衝としての交通利便性の高さ、これまでのまちづくりで培われた都市基盤や充実した都市機能などの豊かな都市のストックを再活用・連携することで、まちなかと郊外を有機的に結び付け、これからの米子を担う子どもたちが今後も住み続けられるまちを目指します。

(2) 施策・誘導方針

まちづくりの理念の具体化に向け、主要な課題に対する施策等の具体的な方向性を示す施策・誘導方針を次のとおり設定します。

● 課題と施策・誘導方針の対応



方針1 まちの利便性を活かした若い世代・子育て世代が住みやすいまちづくり

子育て支援や買い物などの日常生活を支える施設の充実などにより、若い世代・子育て世代を中心として、利便性の高い市街地への居住誘導を進めます。

【施策の方向性】

- ・ 保育園・幼稚園やスーパーなど、子育て支援や日常生活に必要な施設や子どもを遊ばせることのできる公園など、安心して子どもを生み育てられる居住環境の整備
- ・ 医療や介護施設、店舗、働く場所などが集積した中心市街地へアクセスしやすく、基盤が整った駅やバス停周辺の市街地への居住誘導
- ・ 年をとってからも健康で快適に生活できるよう、医療施設や介護施設、日常生活品の買い物場所の維持や公共交通による施設へのアクセスの確保
- ・ ライフスタイルやライフステージにあった場所に住むことができるよう、住み替えを支援する仕組みの構築 など

方針2 商都米子の特性を活かした住みたくなるまちづくり

先端的な技術を活かした新産業の誘致等により働く場所を創出するとともに、自然・歴史資源を活かした観光産業などを活用することで、ワーケーションなどの「新しい働き方」に対応した環境を構築し、若い世代・子育て世代を中心として移住・定住を増やしていく取組を進めます。

【施策の方向性】

- ・ 医療・バイオ産業、バイオマス・地熱などの新エネルギー産業、大山・中海・米子城といった自然・歴史環境を活用した観光産業など、市内に集積する先端技術と既存産業の連携、地域資源の連携等による新たな産業の育成や働く場所の創出
- ・ まちなかの空き家や未利用スペースなどを活用したワーケーションやテレワークなどの「新しい働き方」に対応した環境の整備や関係人口の拡大
- ・ 豊かな自然や歴史資源など本市の魅力を感じることができる景観整備や情報発信などにより、移住・定住につながるシビックプライド（都市に対する市民の誇り）の醸成 など

方針3 充実した都市機能の集積を活かした拠点エリアにおけるにぎわいづくり

市内各地からのアクセスに優れ、医療・介護施設や店舗、公共施設等が集積したまちなかでは、市民生活の中心拠点として必要な機能を維持するとともに、米子駅の南北両地区の連携や歩いて暮らせるまちづくり、利用ニーズに応じた公共施設の機能強化など、将来を見据えた新たなにぎわいの創出や魅力の充実を図ります。

地域拠点である淀江支所や店舗などが立地する淀江支所周辺について、地域の中心としての機能の維持を図ります。

【施策の方向性】

- ・既存の都市機能の維持や空き家・空き地の活用など、まちなかのにぎわい創出や活力の向上
- ・米子駅の南北自由通路や駅前広場の整備、米子駅の南北両地区の連携
- ・地域ニーズに応じた淀江支所周辺の都市機能の充実
- ・公共施設等における長寿命化計画に基づいた戦略的な維持・更新や統廃合、官民連携によるサービス水準の維持・強化などの利便性の向上 など

方針4 交通の要衝としての公共交通ネットワークを活かしたまちなかと郊外が多様な移動手段で結ばれたまちづくり

米子駅を中心として、住宅需要の高い郊外部や周辺都市と結ばれた鉄道、および鉄道を補完するバス路線を活かし、まちなかと各地域を結ぶ公共交通ネットワークが持続的に運行を維持できるよう、利用ニーズに応じた新たな運行形態や利便性の向上を図ります。

鉄道やバスなどの交通結節点の利便性向上を図るとともに、徒歩・自転車で移動しやすい道路環境の整備など、自家用車に過度に依存しないまちづくりを進めます。

【施策の方向性】

- ・まちなかと郊外を結ぶ公共交通ネットワークの維持・確保
- ・待合環境の改善や駐車・駐輪場の整備、鉄道駅へのアクセス改善など、鉄道駅や利用者の多いバス停などについて、交通結節点としての機能の強化
- ・まちなかウォークアブル推進事業等による歩行空間の整備、自転車の活用促進など、市民や観光客などがまちなかを回遊する仕組みの構築
- ・利用ニーズに合わせたバス路線の再編や利便性向上策の導入の検討
- ・MaaSなどの新技術の導入検討

方針5 ハード対策とソフト対策を組み合わせた安全・安心なまちづくり

災害リスクの高いエリアから低いエリアへの住宅や施設の移転を誘導するとともに、浸水リスクのある既成市街地を中心として、防災意識の向上や安全な避難先の確保など、災害発生時に被害を最小化する取組を進めます。

【施策の方向性】

- ・災害リスクの高い地域から低い地域への居住の誘導
- ・耐震化・嵩上げ等による避難所や住宅等の安全性向上
- ・避難先の確保や市民の防災意識の向上等、地域の防災力の強化 など

(3) 目指すべき都市の骨格構造

施策・誘導方針を具体化する上で目指すべき都市の骨格構造を以下に示します。

なお、都市の骨格構造は、中心拠点、地域拠点、基幹的な公共交通軸、居住地域の4つの要素から構成します。

■ 目指すべき都市の骨格構造の位置づけ

種別	役割	本計画での位置づけ
中心拠点	市域全体や周辺市町からの公共交通アクセス性に優れ、行政中枢機能、相当程度の商業集積などの高次の都市機能を提供する拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR米子駅周辺から角盤町・米子港周辺に広がるまちなか ※米子市都市計画マスタープランにおける都市拠点（行政、商業・業務、サービス等が集中する市民の生活交流拠点であり、米子市の顔となる拠点）
地域拠点	地域の中心として、地域住民に、行政支所機能、食品スーパーなど、主として日常生活サービス機能を提供する拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 淀江支所周辺 ※米子市都市計画マスタープランにおける地域行政拠点（支所機能を有する拠点）
基幹的な公共交通軸	中心拠点と地域拠点や居住地域を結ぶ都市軸で、将来にわたり一定以上のサービス水準を確保する公共交通が運行する軸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道 ・ 中心拠点と地域拠点、中心拠点と居住地域を結ぶバス路線
居住地域	一定の人口が集積する居住地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米子境港都市計画区域では、市街化区域内の住宅・商業系用途地域（住宅を主たる用途とする工業系用途地域を含む） ・ それ以外の区域では、市街化区域の基準に相当する概ね40人/ha以上の住宅地

■ 目指すべき都市の骨格構造

